

国立大学法人神戸大学  
大学教育推進機構

人間と社会教育部会  
外部評価報告書

平成31年3月

## はじめに

人間と社会教育部会は、1 機構・3 研究科の、非常勤講師を含む 36 人から構成され、基礎教養科目として社会科学系の「社会学」、「地理学」、総合教養科目として「社会思想史」、「文化人類学」、「現代社会論」、「越境する文化」、「生活環境と技術」、「学校教育と社会」の 8 科目を担当している。広域な領域であり、学生が社会に関する広い視野と深い洞察力を身につけることを目標として、将来の社会を担う真の教養人、専門人になるために、その専門分野によらず学んでほしい内容を含んでいる。

本部会は平成 25 年度に外部評価を行い、改善が必要な課題を指摘されてから 3 年が経過した。その間に Semester 制度から Quarter 制度への全学的移行などの変化がある中で、さらなる授業の改善につとめていきたいと考えて居る。外部評価委員を引き受けていただいた徳島大学総合科学部・平井松午教授、奈良女子大学大学院生活環境科学系・才脇直樹教授には、貴重なご意見やアドバイスを頂戴した。厚く御礼を申し上げます。

人間と社会教育部会  
部会長 井上 真理  
監 事 佐々木 祐  
監 事 石森 大知

## 目 次

|     |                           |    |
|-----|---------------------------|----|
| I   | 自己点検・評価報告書                | 3  |
| 1   | 神戸大学の教育目標<br>神戸大学教育憲章     | 4  |
| 2   | 神戸大学の全学共通教育の目標            | 5  |
| 2-1 | 教養教育の目標                   | 5  |
| 2-2 | 全学共通授業科目の学修目標             | 7  |
| 2-3 | 人間と社会部会の位置づけ              | 11 |
| 3   | 授業の実態                     | 14 |
| 3-1 | 開講状況(平成 29 年度)            | 14 |
| 3-2 | 履修状況                      | 14 |
| 3-3 | 授業の概要                     | 17 |
| 3-4 | 成績評価                      | 17 |
| 3-5 | 学生による授業評価                 | 18 |
| 3-6 | ピアレビュー(授業参観)              | 20 |
| 4   | 「外部評価の評価項目モデル」に沿った自己点検・評価 | 21 |
| 4-1 | 概要                        | 21 |
| 4-2 | 評価項目に基づく自己点検・評価           | 22 |
| 5   | 1 巡目の外部評価結果を受けての自己点検・評価   | 24 |
| II  | 外部評価                      | 25 |
| 1   | 外部評価委員会概要                 | 26 |
| 2   | 外部評価委員による質疑・評価コメント        | 27 |

# I 自己点検・評価報告書

# 1 神戸大学の教育目標

神戸大学は、「開放的で国際性に富む固有の文化の下、『真摯・自由・協同』の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する『知』を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成」することをその使命としている。また、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献するために、国際的に卓越した教育を提供することを基本理念と定めた**神戸大学教育憲章**に則り、4つの教育目的を目指して教育を行っている。

## 神戸大学教育憲章

(平成14年5月16日制定)

神戸大学は、国が設置した高等教育機関として、その固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識し、国民から負託された責務を遂行するために、ここに神戸大学教育憲章を定める。

(教育理念)

1 神戸大学は、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献するために、学部及び大学院で国際的に卓越した教育を提供することを基本理念とする。

(教育原理)

2 神戸大学は、学生が個人的及び社会的目標の実現に向けて、その潜在能力を最大限に発揮できるよう、学生の自主性及び自律性を尊重し、個性と多様性を重視した教育を行うことを基本原理とする。

(教育目的)

3 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かしながら、次のような教育を行う。

- (1) 人間性の教育：高い倫理性を有し、知性、理性及び感性の調和した教養豊かな人間の育成
- (2) 創造性の教育：伝統的な思考や方法を批判的に継承しつつ、自ら課題を設定し、創造的に解決できる能力を身につけた人間の育成
- (3) 国際性の教育：多様な価値観を尊重し、異文化に対する深い理解力を有し、コミュニケーション能力に優れた人間の育成
- (4) 専門性の教育：それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担うことのできる、深い学識と高度な専門技能を備えた人間の育成

(教育体制)

4 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、その教育目的を達成するために、全学的な責任体制の下で学部及び大学院の教育を行う。

(教育評価)

5 神戸大学は、教育理念と教育原理が実現され、教育目的が達成されているかどうかを不断に点検・評価し、その改善に努める。

## 学部教育のカリキュラム・ポリシー

神戸大学は、本学の「教育憲章」及び「学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)」に基づき、学士課程においては「全学共通授業科目」及び各学部・学科に設置する「専門科目」を大きな柱とし、それぞれの学部・学科の教育目標にあわせたカリキュラムを次の方針に則り体系的に編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。各科目の主な学修目標は次のとおりとする。

- ・複眼的に思考する能力を身につけることができるよう、基礎教養科目を開設する。
- ・文化、思想、価値観の多様性を受容するとともに、多分野にまたがる地球的課題を理解する能力を身につけることができるよう、総合教養科目を開設する。
- ・他の分野の人々と協働して課題解決にあたる能力を身につけることができるよう、高度教養科目を開設する。
- ・異なる文化の人々と外国語で意思を通じ合える能力を身につけることができるよう、外国語科目を開設する。
- ・自ら主体的に学修する態度とそれに必要な能力を身につけることができるよう、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

2. 深い学識を涵養し、専門的能力を育成するため、各学部・学科に専門科目を開設する。

## 2 神戸大学の全学共通教育の目的・目標

### 2-1 教養教育の目標

神戸大学は、「学理と実際の調和」という開学以来の教育方針の下、教育憲章に示された「人間性」「創造性」「国際性」「専門性」を高める教育を実施するとともに、各学部がグローバル化に対応した様々な教育プログラムを開発してきた。このようなプログラムに参加する学生だけではなく、全ての学生を、自ら地球的課題を発見しその解決にリーダーシップを発揮できる人材へと育成することが学士課程の課題である。

そこで、全学部学生を対象とする教養教育において、神戸大学の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力を「神戸スタンダード」として明示し、その修得を教育目標とする。

#### 神戸スタンダード

- 複眼的に思考する能力  
専門分野以外の学問分野について基本的なものの考え方を学ぶことを通して複眼的なものの見方を身につける

- 多様性と地球的課題を理解する能力  
多様な文化、思想、価値観を受容するとともに、地球的課題を理解する能力を身につける
- 協働して実践する能力  
専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力と、困難を乗り越え目標を追求し続ける力を身につける

## 全学共通授業科目

神戸大学の教育課程のうち、教養教育に相当するものは、全学共通授業科目として国際教養教育院が開講している。各学部が開講する専門科目と並行して、1～3年次に履修する。

### 1. 全学共通授業科目の区分

- 基礎教養科目
- 総合教養科目
- 外国語科目
- 情報科目
- 健康・スポーツ科学
- 共通専門基礎科目
- 資格免許のための科目
- その他必要と認める科目

### 2. 全学共通授業科目の実施

全学共通授業科目を担当する教員により、科目ごとに組織された22の「教育部会」が実施する。

- |             |                               |
|-------------|-------------------------------|
| ○ 情報科学      | ○ 生物学                         |
| ○ 健康・スポーツ科学 | ○ 地球惑星科学                      |
| ○ 人間形成と思想   | ○ 図形科学                        |
| ○ 文学と芸術     | ○ 応用科学技術                      |
| ○ 歴史と文化     | ○ 医学                          |
| ○ 人間と社会     | ○ 農学                          |
| ○ 法と政治      | ○ ESD                         |
| ○ 経済と社会     | ○ 学際                          |
| ○ 数学        | ○ 外国語第 I (英語)                 |
| ○ 物理学       | ○ 外国語第 II (独語, 仏語, 中国語, ロシア語) |
| ○ 化学        | ○ データ・サイエンス                   |

## 2-2 全学共通授業科目の学修目標

### 基礎教養科目

基礎教養科目は、人文系、社会科学系、生命科学系、自然科学系の4つの分野の科目より開講している科目から、自分が所属する専門分野以外の主要な学問分野について基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解することを目的とし、以下の区分毎に学修目標を定める。

#### ○人文系

人文系としては「哲学」、「論理学」、「倫理学」、「心理学」、「教育学」を開講する。

「哲学」は人間の知的営みの蓄積であり、受講者には自身の専門領域がいかに古代から現代にいたる思想に依拠しているかを理解することが求められる。「論理学」は、あらゆる分野で必要とされる推論、論証の基礎に関わる学問であり、受講者には自身の専門分野でも活用可能な論理的思考能力を身につけることが求められる。「倫理学」では、実社会でも通用する高い倫理観を身につけることが求められる。「心理学」は心のはたらきに関する実証的な研究を行うとともに、心の発達を明らかにし、さまざまな発達段階での心の問題の解決を支援する分野である。「心理学」の受講者には、人間の心のはたらきについてその応用可能性を含めた理解をすることが求められる。「教育学」では、知性・技能・情意等の授受という営みについての基本的理解と、教育行為が現代においてはたす意義について理解することが求められる。

#### ○社会科学系

自己の属する様々なレベルの〈社会〉に対する、科学的かつ複眼的思考と理解とを養うことを目的として、「法学」、「政治学」、「経済学」、「社会学」、「地理学」を開講する。「法学」では複雑化する現代社会において主体的市民として生きるための法学の知識・方法・理論を学ぶ。「政治学」では能動的な政治的主体に求められる、政治を知りそれを生きる知識・理論・方法を学ぶ。「経済学」では、ミクロ・マクロの様々な経済問題を理解するのに必要な基本的概念や分析枠組の習得を目指す。「社会学」では、領域横断的かつ相対的な社会学のものの見方とその有用性を示す。「地理学」においては、その基本概念や発展動向を踏まえ、その実証的・理論的両側面を学ぶ。

#### ○生命科学系

全ての生物にとってかけがえのない〈命〉は、今日の進歩した生命科学技術の下、そのメカニズムが新たに解明される一方で、病気などはまだ不明な部分も多い。本分野では、生命に対する複眼的思考を養うことを目的として、人類を初め地球環境に暮らす多様な生命体の仕組みと、我々が生きていく上で必要な健康管理まで、基礎から臨床医学までを学ぶ。「生物学」では、生物の多様性、遺伝子、細胞の構造から機能まで、生物に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。「医学」では、主要な病気の早期発見や早期治療ができるように、医学に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。「保健学」では、感染症の予防など、体調を管理して病気を防ぐことができるように、保健学に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。「健康科学」では、健康な生活を過ごすために必要な生活習慣を身につけることができるように、健康科学に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。



## ○自然科学系

高度に科学技術の発達した現代社会に対応する複眼的思考を養うことを目的として、本分野では、我々を取り巻く自然現象や社会現象が我々にどのように関わりを持つかについて、自然科学の観点と切り口から学ぶ。「数学」では、数理的思考における基本的な知識や考え方を学ぶ。「物理学」では、19世紀までに確立された古典物理学、あるいは、20世紀に構築された現代物理学の基本的な知識や考え方を学ぶ。「化学」では、分子にまつわる微視的な内容に関して、あるいは、物質の性質など化学の基本的な知識や考え方を学ぶ。「惑星学」では、惑星および諸天体、宇宙における地球、あるいは、惑星の姿や変動現象について、惑星学の基本的な知識や考え方を学ぶ。「情報学」では、コンピュータやスマートフォンなど、これらの身近な機器に利用されている情報技術の歴史や仕組み、最近の活用事例を知り、基礎知識を学ぶ。

## 総合教養科目

総合教養科目は、多文化に対する理解を深め、多分野にまたがる課題を考え、対話型の講義を取り入れるなどの工夫により、複眼的なものの見方、課題発見力を養成することを目的とし、以下の区分毎に学修目標を定める。

### ○多文化理解

グローバルの進展に伴い、現代では異文化間の交流が一層深化し、同時に、異文化に対する理解不足が深刻な不和を招来しかねない状況が現出している。この科目群では、こうした現代世界の状況を的確に把握するとともに、多文化共生のあり方を模索するのに必要な知識を獲得し、思考力を養成することを目標とする。より具体的には、多様な時代と地域の、歴史、社会構造、伝統、宗教、芸術を扱い、これらを通じて異文化に関する知識を獲得するとともに、比較文化的観点から分析することにより、異文化との共生につながる多元的な思考力を養う。

### ○自然界の成り立ち

私達を取り巻く自然界には様々な現象が存在し、日々変化している。これら自然界の様々な事象を、私達は体験を通して、関わりを持ちつつ理解している。しかし、多くが未解明であり、今後の研究の進展に負う面も大きい。従って、自然界の様々な事象を理解し解明していくためには、私達が自然愛を持って能動的に対応し、自然界をよく理解することが重要である。この科目群では、私達の身近な現象として触れることの多い事象、例えば、科学技術と倫理の問題、現代物理学が描く世界像や身近な物理法則、自然界に見られるカタチにまつわる諸問題、ものづくりと科学技術における工学的な技術や将来展望、生命科学として身体の構造と機能の関係、生物資源と農業の今日までの関わりとその特徴、さらには昆虫や微生物との相関、などを取り上げ、私達の日常の問題として理解し、生活の中に取り込んで修得することを目標とする。

## ○グローバルイシュー

社会のグローバル化にともない、わたしたちは、国や地域の境界を越えて地球規模での解決が必要なさまざまな課題に直面している。この科目群では、これらの課題について理解を深め、その解決に指導的役割を果たす人材となるための基礎能力を身につけることを目標とする。－環境問題は、いうまでもなく地球規模の問題であり、自然科学と人文・社会科学の双方から幅広く接近する必要がある。また、人権、ジェンダー、政治や法制度、経済、ビジネスなど、わたしたちの生活に直結する問題領域も、いまや一国だけでは対処することが困難であり、地球規模の視点から取り組んでいくことが求められている。さらに、エネルギー資源・エネルギー技術や発電技術、都市安全技術などの科学技術の応用の考え方や社会における応用の事例についても、地球規模の視点から捉えることで最先端の技術動向を把握することが可能となる。

## ○ESD

この科目群では、〈地球〉を枠組みとした新しい教育運動であるESD（持続可能な開発のための教育）の本質と方法的な特徴を理解し、経済・社会システムの変更や人間のライフスタイルの変化を引き起こすために、われわれが、何を考え、何を变えなければいけないのかを考究する。個人主義的な教育観から小集団・構築主義的な教育観への変更、単一専門性幻想から共同的専門性へのパラダイムの転換など、これまでの常識をくつがえすための方法論を探究してゆく。学生・教員・学外者が、社会的活動やフィールドワークでの協働作業を通して、実践現場にふれながら、新しい動きとしてのESDに〈タッチ〉することが目標である。

## ○キャリア科目

現在、大学生には就職活動を始めるときに初めてキャリアについて考えるのではなく、入学時から卒業後・修了後のキャリアについて考え、深めていくことが求められている。この科目群では、実社会でのボランティアを通じて、あるいは実社会で活躍するOB/OG等社会人の講演を通じて、自己のキャリアに関して、またキャリアとは何かという問いそのものに関して考え、深めていくきっかけを掴み、将来に向けて備える能力を高めることを目標とする。

## ○神戸学

この科目群では、我々の神戸大学が立地する神戸市・兵庫県、瀬戸内海等の歴史と現状に関する理解を深める、あるいは神戸大学そのものに関する理解を深めることを通じて、これからの学生生活を過ごすことになるキャンパス、地域についての理解と関心を深め、学生生活をより有意義にするとともに地域社会と大学とのかかわりについて理解することを目標とする。

## 外国語科目

### ○外国語第I

グローバル社会の主要な共通言語（リング・フランカ）となっている英語について、その運用能力を向上させるとともに、国際コミュニケーションを成り立たせている諸要素への理解を深めることを目標とする。開設科目のうち、English CommunicationとEnglish Literacyでは、それぞれ、聞く力と話す力、読む力と書く力を中心として、英語力の総合的向上を目指す。

Autonomous English では、コンピュータを利用し、英語の基盤能力の拡充と、自律的学習態度の向上を目指す。Productive English では、調査・発表活動の実践を通し、英語の発表能力の拡充と、問題発見能力および問題解決能力の向上を目指す。（これら必修科目の配当は学部により異なる。）また、Advanced English では、各自のニーズに応じた各種の英語技能の向上を目指す。

## ○外国語第 II

グローバル化があらゆる分野にまで浸透し、人びとを取り巻く多文化状況が日常化してきた今日、英語プラスもう一つの外国語の基礎的な学力と教養を身に付けることが必要である。そこでドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のうち、一つの語学を選択し、1年次では、発音・文法・語彙・文章表現などの初級レベルの基礎的修得を目指す。2年次では、より高度な文法事項の理解や読解力・表現力などの中級レベルの習得を目指す。3年次では、多様なトレーニングを通して、社会・文化背景などの知識を身につけながら、実践的な運用能力をさらに向上させることを目指す。

## 情報科目

コンピュータなどの情報機器とネットワークにおけるコミュニケーションが必須とされる高度情報化社会において、学生はコミュニケーション技術や情報処理、情報収集・発信技術など有効な情報機器の利用方法を学ばなければならない。また、変化の激しい情報化社会に対応するためにはコンピュータやネットワークに関する普遍的な基礎概念と実践的な知識を同時に理解しておく必要がある。情報科目はコンピュータの操作技術を取得し、情報とその取り扱いに関する正しい判断力を養い、それらを日常生活や社会活動に活用できる能力を身につけることを目指す。

## 健康・スポーツ科学

健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学である。健康・スポーツ科学では、講義と実習を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することを目標とする。

## 共通専門基礎科目

専門教育を受けるための準備や導入として、複数の学部に通ずる基礎科目を開講している。各学部で行われる専門教育では、専門分野ごとそれぞれの性質に合わせた系統的そして累積的な知識と技術の修得が不可欠である。そこで、共通専門基礎科目では、専門科目を理解し修得するための基礎となる知識や技術を身につけ、基礎的な理論を理解し、学問的なものの見方を養うことを目標とする。

## 2-3 人間と社会部会の位置づけ

本部会は、基礎教養科目と総合教養科目を担当している。

### 担当授業科目

#### 基礎教養科目

| 科目名 | 単位数 | 授業のテーマと目標   | 開講 Q・開講数 |    |    |    |
|-----|-----|---|----------|----|----|----|
|     |     |   | Q1       | Q2 | Q3 | Q4 |
| 社会学 | 1   | 社会学という学問について、その学説と理論の歴史と現状、ならびに経験的研究の成果について、そのつど具体的な主題やトピックを中心的にとりあげつつ、概説的な授業を行う。現代社会における諸問題を批判的に解釈・分析するための社会的な概念や方法論を身につけることを目標とする。  | 1        | 1  | 2  | 2  |
| 地理学 | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理学の基本概念と学問的発展および都市地理学をテーマとしている。地理学の基本概念と学問的発展(学史)を把握し、都市地理学の特性を把握することを目標とする。</li> <li>・日本や世界のさまざまな地理的事象を取り上げ、人間・都市・環境の特徴や変遷、互いの関係を、「地理学」の観点から考える。目標は、人間、都市と環境という課題への興味関心を受講生が持ち、自分の足で地域を歩いて調べ、考察する地理的な基礎知識を得ることである。</li> </ul> | 2        | 2  | 1  | 1  |

#### 総合教養科目

| 科目名   | 単位数 | 授業のテーマと目標   | 開講 Q・開講数 |    |    |    |
|-------|-----|---|----------|----|----|----|
|       |     |   | Q1       | Q2 | Q3 | Q4 |
| 社会思想史 | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「政治」-「経済」-「文化」の社会思想史。今日、当たり前のように用いられる上記三つの概念について、近代におけるその生成史を概観する。ヨーロッパ 近代とは思想的にどのような時代なのか、世界史へのアメリカの登場はどのような思想的意味をもったかを論じ、「現代」を見る目を養う。時代ごとに何を問題にしてきたのか、それらのつながりはどうなっているのかについて、明確なイメージをもてるようになることを目指す。</li> <li>・17世紀以来の西洋の社会理論を歴史的に概観することをテーマとする。西洋社会思想史の大まかなアウトラインを理解することを目標とする。</li> </ul> | 1        | 1  | 1  | 1  |

|         |   |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|---|
| 文化人類学   | <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化人類学自体は、若い学問体系である。それが批判的に継承してきた17世紀以来の西洋の社会理論を歴史的に概観することをテーマとする。西洋社会思想史の大まかなアウトラインを理解する文化人類学の歴史、考え方、方法論を平易に説明するとともに、人類学の中心的テーマを取り上げる。文化人類学の考え方の基礎的知識をえるとともに、異文化理解についての態度を身につけることを目指す。</li> <li>・本授業での目標は、人類学的思考法の特質を学ぶことに置く。そのために、まず文化人類学という学問の特徴、歴史を概観し、次いで、異文化との遭遇、世界の成り立ちを研究するうえでの人類学的なアプローチの特徴を学ぶ。また社会関係について贈与と交換をめぐる議論から、社会関係を人類学がどのような視点から捉えるのか、理解を深める。</li> <li>・文化人類学における主要テーマの1つである親子と家族に焦点をあてる。世界の多様な人間の在り方を理解するとともに、現代社会に生きるわれわれにとって親子、家族、結婚とは何かについて自らもかかわる存在として具体的かつ相対的に考えることを目指す。</li> <li>・本授業では民族誌に注目する。まず、地球上に住むひとびとが営む文化のさまざまな側面について、民族誌を手がかりとして考える。地球上のくらしの多様性について、民族誌を通して具体的事実として知ることとともに、比較の観点からそれらの地域の構造を理解する。そのことにより、世界の国ぐにに住むひとびとに対する相対的視点を涵養し、国際あるいは多文化共生の地球時代に生きる知的構えを養う。</li> </ul> | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 現代社会論 A | <p>1</p> <p>現代社会における最重要課題の一つである、人の国際移動について論じる。移民・移住という現象を、「ひとごと」としてではなく、われわれの社会の構造そのものに起因する事象として理解できるようになることを目標とする。</p>   | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 現代社会論 B | <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界における格差問題について概観する。格差問題について理論的に分析できる能力を養成することを目標とする。</li> <li>・「人間環境としての自然・社会」について、現代の自然環境破壊・保全に関わる諸問題を現代社会論の視点から考察する。現代社会について基礎的な知見を得ることを目標とする。</li> <li>・認知科学からみた「こころ」と「社会」をテーマとする。死とは何か、生とは何か、なぜ私たちはお互いを理解することが難しいのかといった事柄について認知科学の視点から考察する。</li> <li>・超高齢社会「日本」をテーマとする。超高齢社会日本の現状を知ること、超高齢社会における問題を理解することを目標とする。</li> </ul>  | 1 | 2 | 1 | 1 |

|         |   |   |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|---|---|
| 越境する文化  | 1 | <p>「越境する文化」では、文化人類学ないしは文化研究の観点から考察を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化人類学は、異文化を考察する。この分野の歴史、考え方、方法論を平易に説明するとともに、「越境」を人類学から考える。文化人類学の考え方の基礎的知識をえるとともに、異文化理解についての態度を身につけることを目指す。</li> <li>・カルチュラル・スタディーズと言われる文化研究のアプローチのケース・スタディーである。グローバルとローカルのせめぎあいの中で生き残ってきたサッカー文化について考察する。</li> <li>・「文化研究のアプローチのケース・スタディー」として、本授業では東京オリンピック再考をテーマとする。オリンピックを入り口にして、グローバル都市東京が寄生する日本の現代史を理解することを目標とする。</li> <li>・本授業における「文化研究のアプローチのケース・スタディー」について、オリンピックを問い直すことをテーマとする。オリンピックとは何か、何だったか、何になりうるか、グローバルな現代史とつなぎ合わせて読み解いていく。</li> </ul> | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 生活環境と技術 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りに存在する多様な緑地環境の役割を深く理解させるとともに生活環境に「緑」を取り入れる技術と快適性について学習する。身近な緑地である庭や公園の形成の歴史や法制度を学び、さらに都市における緑地の導入技術とその効果について学習する。最新の知見を取り入れながら毎回講義内容に沿って作成した資料や映像資料を用いて解説し、実際に利用されている植物についても植物生態学的知見を紹介する。</li> <li>・現在われわれが直面している環境問題(ごみ, 地球温暖化)とエネルギー問題に焦点を当て、これらの対策に係る政策や対策技術等を解説し、我々の生活が環境に及ぼす影響を学ぶ。また、環境問題を定量的側面から評価し、改善策を見出す手法であるライフサイクルアセスメントについてその概要を学ぶ。これにより、環境問題の発生メカニズムと政策の立案背景に関する知識を身につける。</li> </ul>   | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 学校教育と社会 | 1 | <p>教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきた。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからである。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつく。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していく。教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にではなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解することを目標とする。</p>  | 2 | 2 | 2 | 2 |

(9科目計 46単位)

## 実施体制（教員組織）

人間と社会教育部会に所属する教員は1機構・3研究科に及ぶ。機構および研究科ごとに、教員の専門領域に応じた担当授業配分がなされており、当該部局のルールによって授業担当者を決め、全体的な調整は部会長（1名）、幹事（2名）が取りまとめをしている。具体的な所属内訳と担当授業は以下の通りである。

|            |                                  |
|------------|----------------------------------|
| 大学教育推進機構   | 2名（学校教育と社会）                      |
| 人文学研究科     | 7名（社会学，地理学，現代社会論）                |
| 国際文化学研究科   | 8名（社会学，文化人類学，社会思想史，現代社会論，越境する文化） |
| 人間発達環境学研究科 | 16名（地理学，現代社会論，生活環境と技術）           |

## 3 授業の実態

### 3-1 開講状況（平成29・30年度）

|    | 曜日 | 時限 | 開講科目名                                  |
|----|----|----|--|
| 1Q | 月  | 2  | 社会学，地理学，文化人類学，学校教育と社会                  |
|    | 火  | 2  | 現代社会論B，越境する文化，生活環境と技術，学校教育と社会          |
|    | 水  | 1  | 地理学，社会思想史，文化人類学，現代社会論A                 |
| 2Q | 月  | 2  | 社会学，地理学，文化人類学，学校教育と社会                  |
|    | 火  | 2  | 現代社会論B，越境する文化，生活環境と技術，学校教育と社会          |
|    | 水  | 1  | 地理学，社会思想史，文化人類学，現代社会論B                 |
| 3Q | 月  | 2  | 社会学，地理学，文化人類学，学校教育と社会                  |
|    | 火  | 2  | 文化人類学，越境する文化，学校教育と社会                   |
|    | 水  | 1  | 社会学，社会思想史，文化人類学，現代社会論B，生活環境と技術，学校教育と社会 |
| 4Q | 月  | 2  | 社会学，地理学，文化人類学，学校教育と社会                  |
|    | 火  | 2  | 文化人類学，越境する文化，学校教育と社会                   |
|    | 水  | 1  | 社会学，社会思想史，文化人類学，現代社会論B，生活環境と技術，学校教育と社会 |

### 3-2 履修状況

1年次前期は、クラス・学籍番号に基づいて受講科目を指定している。

1年次後期以降については、学部・学科等ごとに指定された曜日・時限（「学部指定開講枠」）の授業科目を選択する。履修登録は教務システムによる抽選登録により決定される。

以下の表に各科目の履修者数を示している。20名前後の科目がある一方で200名近い履修者がいるクラスもある。100-200名というクラスサイズは、様々な制約・事情の中でやむをえざるものであるとはいえ、やはり双方向的・対話型授業の展開にとって、大きな制約となっている。シラバスから、こうした困難な条件の中でも授業担当者は、双方向的・対話型の授業に向けた工夫・努力を行っている。

平成29年度前期第1クォーター 基礎教養科目抽選登録結果等  
平成29年4月14日現在

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部  |
|----|----|-------|--------|------|--------|--------|------|--------------|
| 月  | 2  | 社会学   | 48     | 48   | 2      | 1      | 50   | 理学部 2年 (140) |
|    |    | 地理学   | 60     | 60   | 5      | 5      | 70   | 農学部 2年 (150) |
| 水  | 1  | 地理学   | 47     | 40   | 9      | 22     | 70   | 理学部 2年 (140) |

平成29年度前期第1クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部           |
|----|----|---------|--------|------|--------|--------|------|-----------------------|
| 月  | 2  | 文化人類学   | 130    | 130  | 2      | 3      | 126  | 全学部対象 (2年生以上)         |
|    |    | 学校教育と社会 | 152    | 152  | 1      | 1      | 136  |                       |
| 火  | 2  | 現代社会論B  | 50     | 51   | 0      | 11     | 60   | 文学部 2年 (115)          |
|    |    | 越境する文化  | 74     | 74   | 7      | 14     | 92   | 発達科学部 (開校以外) 2年 (180) |
|    |    | 生活環境と技術 | 12     | 13   | 2      | 6      | 19   |                       |
|    |    | 学校教育と社会 | 50     | 48   | 1      | 17     | 60   |                       |
| 水  | 1  | 社会思想史   | 194    | 200  | 0      | 0      | 189  | 全学部対象 (2年生以上)         |
|    |    | 文化人類学   | 169    | 200  | 0      | 0      | 185  |                       |
|    |    | 現代社会論A  | 492    | 200  | 0      | 0      | 197  |                       |

平成29年度第2クォーター 基礎教養科目抽選登録結果一覧  
平成29年5月22日現在

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|--------|--------|------|-------------|
| 月  | 2  | 地理学   | 119    | 119  | 14     | 22     | 155  | 1年生：理学部、農学部 |
|    |    | 社会学   | 150    | 150  | 0      | 0      | 150  |             |
| 水  | 1  | 地理学   | 296    | 200  | 0      | 0      | 200  | 1年生：工学部     |

平成29年度前期第2クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部      |
|----|----|---------|--------|------|--------|--------|------|------------------|
| 月  | 2  | 学校教育と社会 | 83     | 83   | 8      | 19     | 110  |                  |
|    |    | 文化人類学   | 93     | 93   | 2      | 16     | 108  |                  |
| 火  | 2  | 学校教育と社会 | 56     | 69   | 10     | 21     | 99   | 2年生：国際文化学部、発達科学部 |
|    |    | 現代社会論B  | 101    | 107  | 2      | 41     | 143  |                  |
|    |    | 生活環境と技術 | 27     | 37   | 9      | 49     | 84   |                  |
|    |    | 越境する文化  | 127    | 134  | 46     | 0      | 177  |                  |
| 水  | 1  | 文化人類学   | 48     | 41   | 17     | 42     | 100  | 海事科学部            |
|    |    | 現代社会論B  | 65     | 70   | 13     | 56     | 136  |                  |
|    |    | 社会思想史   | 58     | 61   | 38     | 39     | 134  |                  |

平成29年度後期第3クォーター 基礎教養科目抽選登録結果等  
平成29年10月5日現在

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 追加受付者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|--------|--------|--------|------|-------------|
| 月  | 1  | 社会学   | 99     | 103  | 33     | 19     | 0      | 155  |             |
|    |    | 地理学   | 186    | 180  | 0      | 0      | 0      | 180  |             |
| 水  | 2  | 社会学   | 54     | 105  | 0      | 0      | 0      | 113  |             |

平成29年度後期第3クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 追加受付者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|---------|--------|------|--------|--------|--------|------|-------------|
| 火  | 1  | 文化人類学   | 57     | 57   | 5      | 6      | 1      | 67   | 1年生：法学部     |
|    |    | 越境する文化  | 49     | 49   | 10     | 25     | 0      | 78   |             |
|    |    | 学校教育と社会 | 56     | 56   | 20     | 21     | 0      | 91   |             |
| 水  | 2  | 社会思想史   | 58     | 65   | 2      | 24     | 0      | 91   |             |
|    |    | 文化人類学   | 141    | 144  | 15     | 21     | 0      | 178  |             |
|    |    | 現代社会論B  | 31     | 32   | 0      | 17     | 0      | 47   |             |
|    |    | 生活環境と技術 | 60     | 63   | 4      | 24     | 0      | 90   |             |
|    |    | 学校教育と社会 | 102    | 86   | 7      | 26     | 3      | 116  |             |

平成29年度後期第4クォーター 基礎教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 追加受付者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|--------|--------|--------|------|-------------|
| 月  | 1  | 社会学   | 111    | 134  | 2      | 49     | 0      | 183  |             |
|    |    | 地理学   | 302    | 200  | 0      | 0      | 0      | 199  |             |
| 水  | 2  | 社会学   | 48     | 40   | 7      | 58     | 0      | 103  |             |

平成29年度後期第4クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選者数 | 3次抽選者数 | 追加受付者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部    |
|----|----|---------|--------|------|--------|--------|--------|------|----------------|
| 火  | 1  | 文化人類学   | 76     | 79   | 10     | 9      | 1      | 90   | 2年生：国際文化学部、法学部 |
|    |    | 越境する文化  | 59     | 61   | 20     | 27     | 3      | 100  | 1年生：法学部        |
|    |    | 学校教育と社会 | 50     | 46   | 16     | 22     | 1      | 77   |                |
| 水  | 2  | 社会思想史   | 48     | 53   | 5      | 7      | 2      | 65   |                |
|    |    | 文化人類学   | 220    | 177  | 7      | 16     | 0      | 199  |                |
|    |    | 現代社会論B  | 10     | 11   | 5      | 8      | 2      | 23   |                |
|    |    | 生活環境と技術 | 108    | 110  | 7      | 14     | 5      | 130  |                |
|    |    | 学校教育と社会 | 98     | 100  | 0      | 0      | 0      | 72   |                |



平成30年度前期第1クォーター 基礎教養科目抽選登録結果等

平成28年4月12日現在

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|----------|----------|---------|------|-------------|
| 月  | 2  | 社会学   | 88     | 91   | 9        | 41       | 0       | 137  | 2年生：S、A     |
|    |    | 地理学   | 67     | 59   | 21       | 21       | 0       | 101  |             |
| 水  | 1  | 地理学   | 73     | 73   | 9        | 23       | 0       | 103  | 2年生：S、A     |

平成30年度前期第1クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部   |
|----|----|---------|--------|------|----------|----------|---------|------|---------------|
| 月  | 2  | 文化人類学   | 81     | 90   | 6        | 5        | 1       | 94   | 指定なし（全学部対象）   |
|    |    | 学校教育と社会 | 173    | 193  | 3        | 4        | 0       | 184  |               |
| 火  | 2  | 現代社会論B  | 32     | 38   | 5        | 8        | 0       | 49   | 2年生：L、H発達・子ども |
|    |    | 越境する文化  | 66     | 66   | 8        | 7        | 0       | 80   |               |
|    |    | 生活環境と技術 | 9      | 9    | 2        | 3        | 0       | 13   |               |
|    |    | 学校教育と社会 | 25     | 20   | 1        | 2        | 0       | 22   |               |
| 水  | 1  | 社会思想史   | 186    | 191  | 2        | 7        | 0       | 191  | 指定なし（全学部対象）   |
|    |    | 文化人類学   | 101    | 97   | 2        | 0        | 0       | 93   |               |
|    |    | 現代社会論A  | 199    | 200  | 0        | 0        | 0       | 184  |               |

平成30年度第2クォーター 基礎教養科目抽選登録結果一覧

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|----------|----------|---------|------|-------------|
| 月  | 2  | 社会学   | 78     | 78   | 9        | 18       |         | 105  |             |
|    |    | 地理学   | 179    | 177  | 6        | 17       |         | 200  |             |
| 水  | 1  | 地理学   | 316    | 200  | 0        | 0        |         | 200  |             |

平成30年度前期第2クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部                                     |
|----|----|---------|--------|------|----------|----------|---------|------|---|
| 月  | 2  | 文化人類学   | 123    | 123  | 4        | 19       |         | 144  | 1年生：H <sup>+</sup> ロハ <sup>+</sup> ル, MM, MH, W |
|    |    | 学校教育と社会 | 103    | 103  | 2        | 45       |         | 149  |   |
| 火  | 2  | 現代社会論B  | 56     | 56   | 5        | 38       |         | 99   | 1年生：H <sup>+</sup> ロハ <sup>+</sup> ル・発達・環境      |
|    |    | 越境する文化  | 94     | 94   | 23       | 41       |         | 158  | 2年生：H <sup>+</sup> ロハ <sup>+</sup> ル・環境, J      |
|    |    | 生活環境と技術 | 26     | 26   | 19       | 18       |         | 50   |   |
|    |    | 学校教育と社会 | 56     | 58   | 8        | 12       |         | 80   |   |
| 水  | 1  | 社会思想史   | 55     | 57   | 31       | 45       |         | 133  | 1年生：MH, W                                       |
|    |    | 文化人類学   | 78     | 73   | 12       | 46       |         | 130  |   |
|    |    | 現代社会論B  | 67     | 67   | 12       | 17       |         | 96   |   |

平成30年度後期第3クォーター 基礎教養科目抽選登録結果等

平成30年10月15日現在

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|----------|----------|---------|------|-------------|
| 月  | 1  | 社会学   | 123    | 153  | 19       | 13       | 0       | 176  |             |
|    |    | 地理学   | 284    | 200  | 0        | 0        | 0       | 199  |             |
| 水  | 2  | 社会学   | 79     | 102  | 24       | 59       | 0       | 173  |             |

平成30年度後期第3クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部                               |
|----|----|---------|--------|------|----------|----------|---------|------|---|
| 火  | 1  | 文化人類学   | 81     | 81   | 4        | 19       | 0       | 97   | 2年生：H（ <sup>+</sup> ロハ <sup>+</sup> ル）, J |
|    |    | 越境する文化  | 39     | 39   | 9        | 14       | 0       | 53   | 1年生：J                                     |
|    |    | 学校教育と社会 | 32     | 32   | 5        | 14       | 0       | 42   |   |
| 水  | 2  | 社会思想史   | 53     | 65   | 5        | 17       | 0       | 80   |   |
|    |    | 文化人類学   | 44     | 68   | 8        | 17       | 0       | 90   |   |
|    |    | 現代社会論B  | 46     | 51   | 1        | 9        | 1       | 60   |   |
|    |    | 生活環境と技術 | 60     | 99   | 6        | 0        | 0       | 89   |   |
|    |    | 学校教育と社会 | 44     | 54   | 3        | 10       | 0       | 59   |   |

平成30年度後期第4クォーター 基礎教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名 | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部 |
|----|----|-------|--------|------|----------|----------|---------|------|-------------|
| 月  | 1  | 社会学   | 158    | 154  | 5        | 41       | 0       | 193  |             |
|    |    | 地理学   | 264    | 200  | 0        | 0        | 0       | 198  |             |
| 水  | 2  | 社会学   | 66     | 57   | 5        | 78       | 2       | 139  |             |

平成30年度後期第4クォーター 総合教養科目抽選登録結果等

| 曜日 | 時限 | 開講科目名   | 第一希望者数 | 当選者数 | 2次抽選当選者数 | 3次抽選当選者数 | 追加受付け者数 | 履修者数 | 学部指定開講枠対象学部   |
|----|----|---------|--------|------|----------|----------|---------|------|---------------|
| 火  | 1  | 文化人類学   | 59     | 45   | 4        | 10       | 2       | 57   | 2年生：H（発達、子ども） |
|    |    | 越境する文化  | 26     | 20   | 9        | 20       | 0       | 44   | 1年生：J         |
|    |    | 学校教育と社会 | 44     | 54   | 10       | 13       | 0       | 76   |               |
| 水  | 2  | 社会思想史   | 69     | 77   | 5        | 18       | 0       | 98   |               |
|    |    | 文化人類学   | 37     | 59   | 3        | 13       | 1       | 73   |               |
|    |    | 現代社会論B  | 2      | 5    | 3        | 8        | 0       | 14   |               |
|    |    | 生活環境と技術 | 199    | 155  | 0        | 0        | 0       | 153  |               |
|    |    | 学校教育と社会 | 41     | 68   | 1        | 24       | 0       | 91   |               |

○学部指定開講枠（アルファベット）の示す学部（学科）名について

L：文学部 C：国際文化学部 D：発達科学部 J：法学部 E：経済学部 B：経営学部 S：理学部  
MM：医学部医学科 MH：医学部保健学科 T：工学部 A：農学部 W：海事科学部

### 3-3 授業の概要

授業内容の詳細は、巻末のシラバスを参照されたい。

全体として、「人間と社会」の学習目標を、多様な学問的手法・視点から追究するものとなっている。

### 3-4 成績評価

神戸大学共通規則に基づき、下記の基準で成績を評価している。

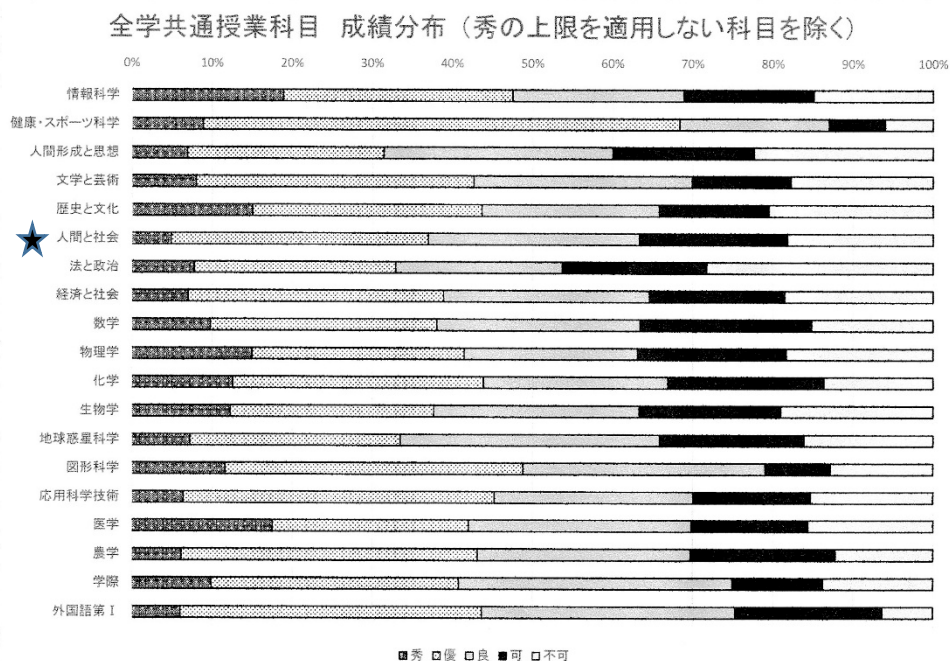
|        |             |
|--------|-------------|
| 秀 (S)  | 90点以上100点以下 |
| 優 (A)  | 80点以上 90点未満 |
| 良 (B)  | 70点以上 80点未満 |
| 可 (C)  | 60点以上 70点未満 |
| 不可 (F) | 60点未満       |

秀、優、良、可及び不可の評価基準は、次の各号のとおりとする。

- (1) 秀 学修の目標を達成し、特に優れた成果を収めている。
- (2) 優 学修の目標を達成し、優れた成果を収めている。
- (3) 良 学修の目標を達成し、良好な成果を収めている。
- (4) 可 学修の目標を達成している。
- (5) 不可 学修の目標を達成していない。

平成28年度入学者からはグレードポイントアベレージ (GPA) 評価制度が導入された。GPA算出には秀(4.3点)、優(4点)、良(3点)、可(2点)、不可(0点)換算での成績評価が用いられている。

平成29年度Q3, Q4の成績分布は以下のグラフの通りである。



### 3-5 学生による授業評価

授業によっては、毎回の授業毎に履修者に感想用紙、アンケート、課題プリント等を提出させ、次の授業時に質問・意見等に回答・コメントするなど、日常的・質的な授業評価を行っている。

各クォーター末に、7つの質問からなる「授業振り返りアンケート」を実施している。回答は、神戸大学教務情報システムを通じて行われる。

【設問1】この授業に関して、平均して毎週どれくらい自己学修(予習、復習を含む)をしましたか。

[5 択]

【設問2】この授業の内容はよく理解できましたか。 [5 択]

【設問3】シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。 [7 択]

【設問4】この授業で改善が必要と思われる事項があればチェックしてください (7 項目・複数回答)

【設問5】総合的に判断して、この授業を5段階で評価してください。 [5 択]

【設問6】この授業を振り返って自らの学修に関する感想や、授業をより良くするための意見・要望を書いてください。 [記述式]

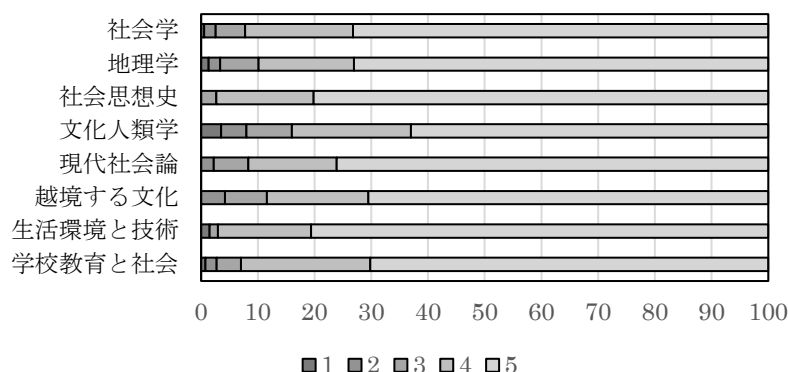
【設問7】あなたはこの授業の担当教員を全学共通教育ベストティーチャー賞に推薦したいと思いませんか。 [2 択]

以下では、【設問1】から【設問5】について、平成29年度に開講された「人間と社会」部会科目(開講数 46)のアンケート結果の科目平均を図に示す。

科目名(開講数)：社会学(6)、社会思想史(4)、地理学(6)、文化人類学(8)、  
現代社会論(6)、越境する文化(4)、生活環境と技術(4)、学校教育と社会(8)

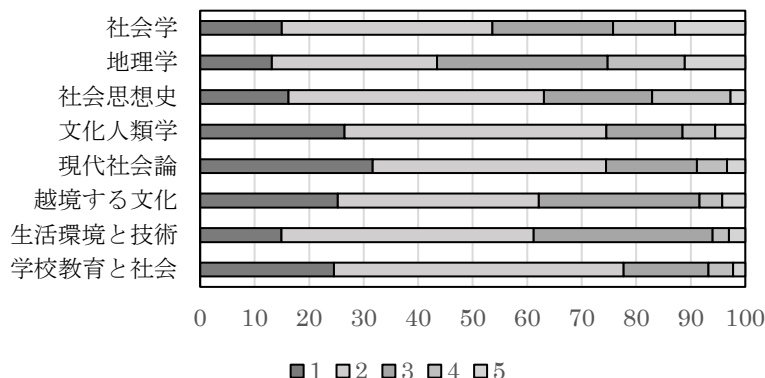
【設問1】この授業に関して、平均して毎週どれくらい自己学修(予習、復習を含む)をしましたか。

1. 180分以上、
2. 120分以上-180分未満、
3. 60分以上-120分未満、
4. 30分以上-60分未満、
5. 0-30分未満



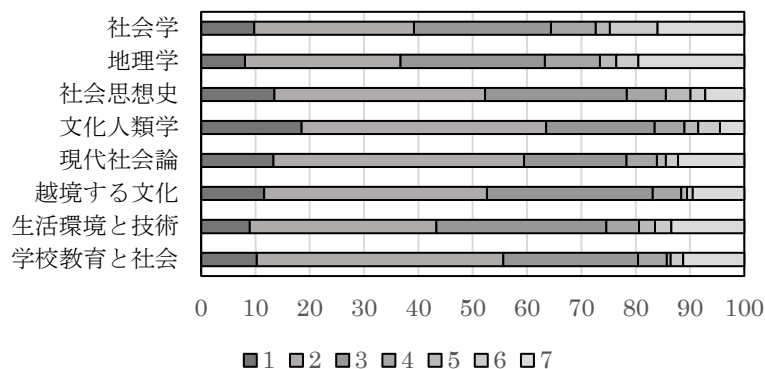
【設問2】 この授業の内容はよく理解できましたか。

1. そう思う, 2. どちらかといえばそう思う, 3. どちらともいえない,
4. どちらかといえばそう思わない, 5. そう思わない



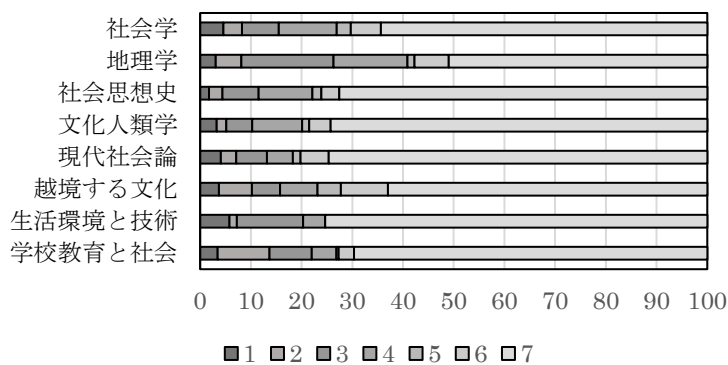
【設問3】 シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。

1. 十分に達成できた, 2. ある程度達成できた, 3. どちらともいえない,
4. あまり達成できなかった, 5. 達成できなかった, 6. 到達目標が分からない,
7. シラバスを読んでいない



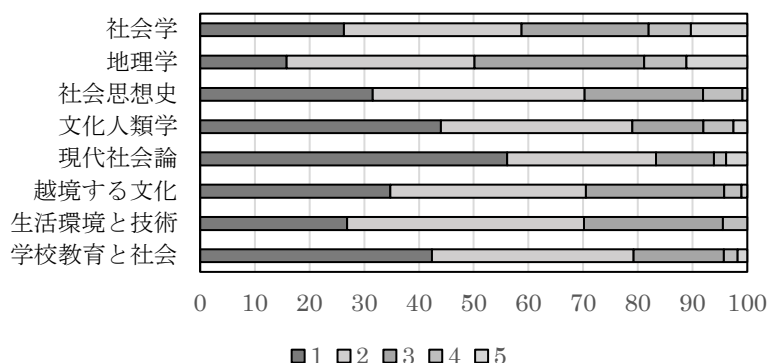
【設問4】 この授業で改善が必要と思われる事項があればチェックしてください(複数可)

1. 担当教員の授業への熱意, 2. 担当教員の学生に対する接し方,
3. 担当教員の話し方, 4. 板書, 教材, ビデオ等, 5. シラバス,
6. 授業の進み方・計画性, 7. 特になし



【設問5】総合的に判断して、この授業を5段階で評価してください。

1. 有益であった, 2. どちらかといえば有益であった, 3. どちらともいえない,
4. どちらかといえば有益ではなかった, 5. 有益ではなかった



【設問6】の記述式質問（感想，意見，要望）には，さまざまな回答があり，評価点の指摘は担当教員にとって励みになり，また問題点の指摘は今後の授業の参考になっている。また，部会長は全ての部会開講科目のアンケート結果を確認しており，とくに問題があると思われる場合には，担当教員に改善を指示する体制が整えられている。

【設問 7】の結果にもとづいて，全教養科目からベストティーチャー賞が選定される。近年では，人間と社会部会科目から，以下の授業がベストティーチャー賞を授与されている。

○受賞者一覧

| 受賞時期       | 科目群    | 氏名   | 所属(職名)         | 講義科目    |
|------------|--------|------|----------------|---------|
| 平成 22 年度前期 | 文系講義科目 | 山内乾史 | 大学教育推進機構・教授    | 学校教育と社会 |
| 平成 24 年度前期 | 文系講義科目 | 増本康平 | 人間発達環境学研究科・准教授 | 現代社会論   |

平成 29 年には「受賞者に続いて学生からの高い評価を受けた教員」には 増本康平先生のお名前がある。

### 3-6 ピアレビュー(授業参観)

3 年に 1 度，1 クラスのピアレビューを実施している。部会構成員，および他部会の教員等が参加し，その後，授業担当者を交えて，意見交換・検討会を開いている。意見交換会では，講義の問題点，改善方法等について率直な議論が行われている。

| 実施時期               | 授業を公開する<br>教員名        | 授業<br>科目名 | 実施日時                 | 参観者                  |             |    |
|--------------------|-----------------------|-----------|----------------------|----------------------|-------------|----|
|                    |                       |           |                      | 評価・FD<br>専門委員会<br>委員 | そ<br>の<br>他 | 計  |
| 平成 26 年度<br>前期     | 原口 剛<br>(人文学研究科准教授)   | 地理学 S     | 6 月 16 日<br>(月) 3 時限 | 5                    | 6           | 11 |
| 平成 29 年度<br>前期(2Q) | 西澤 晃彦<br>(国際文化学研究科教授) | 社会学       | 6 月 26 日<br>(月) 2 時限 | 4                    | 3           | 7  |

## 4 「外部評価の評価項目モデル」に沿った自己点検・評価

### 4-1 概要

「人間と社会」教育部会は、社会に関する広い視野と深い洞察力を身につけることを学習目標として、①人文・社会科学のディシプリン(社会学, 文化人類学, 地理学, 社会思想史), および②現代的諸課題(現代社会論, 越境する文化, 生活環境と技術, 学校教育と社会)の双方を視野に入れ, 多岐にわたる授業科目を提供している。

授業内容は、概ねシラバスに沿って展開されている。個々の教員は、資料配布、映像・音声資料等の活用、コミュニケーションカード等の活用、双方向的な意見紹介やコメント、高校の学習内容との連続性の確認、受講者の既存の知識や観点を相対化する問題提起等、多様な工夫・努力を行っている。映像を使える講義から理論的、そして純粋に思想的内容の講義まであり、中にはシラバスにおいて大枠で内容を掲載している科目もまだある。このことに関しては、教員側の想いもある一方で、時代の流れとして詳細なシラバスの標記が求められていることから、話し合いを重ね、同意のもとに、より良い方向になるよう、今後も努力していく所存である。

29年度からクォーター制が実施されている。学生は、1クォーターごとに履修する科目を変えており、授業する側は、その1クォーターのみで科目の概要を示さなくてはならない。しかし、7.5回というのはきわめて短く、とりわけ社会学、地理学、文化人類学、社会思想史等のディシプリンにとっては、この回数で学科の概略を示すことは難しい要求となっている。当然現代の学生にとって面白そうなトピックを並べ、学科に興味をもってもらうという形の授業となる。受講学生によって異なると思われるが、それで一向に構わない学生もいれば、もう少し学科の概要を学びたいと考えている、あるいは学ぶ必要のある学生も多い。〈人間と社会〉を構成する学科群にとって、クォーター制度は、現在のところ、授業を、トピックのいくつかの並列的提起、そのことによる学科への関心の喚起というレベルに終始させる面が強い。しかしそれでは、学科の基礎の学習にはならない可能性が高い。各教師は所定の7.5回分で、にもかかわらず学科の今日的なあり方の概要を示すべく、試行を繰り返している。今後も工夫を重ねる必要があるであろうと思われる。科目によってはセメスター制の方が適するものもあることから、今後も議論を重ねることになると考えられる。

授業規模には大きな幅がある。人間と社会教育部門の授業は人気が高く、総じて履修者が多い事態には変わりがないが、20人前後から200人前後と多岐にわたっている。教養の大規模クラスに使っている棟は施設として必ずしも授業をしやすいものではなく、長期的にはもっと効率性の高い教室が求められている。大規模クラスで出席を取るとは、必ずしも簡単ではなくまた学生の注意が拡散する。今日、学生は出席点をしばしば望んでいるが、学科の理解と、出席の頻度は、試験結果を見るかぎり必ずしも対応していない。この部門の科目の人文的性格に起因するものかもしれない。

いずれにせよ、どういう学生が受講しており、どういう形で講義すればもっとも内容の理解が進むか、模索すべき課題が多いのは確かである。各スタッフはこれらについて一層の試行を展開する必要があるであろうし、そのことへの評価も、短期に判断を下せるような事柄ではないように思われる。

学生の授業評価において、自己学修の時間についての設問では、60分未満の学生の割合が多い状況である。授業内のみで終わらず自己学修につなげる努力が望まれる。内容理解や目標への到達度、総合評価に関しては、概ね高い評価が得られていると考えている。しかし、科目によっては評価に幅のえられるものもある。高等学校までの科目と同じ名称の科目であっても、研究手法や視点が異なり、学生が既存のものと考えていた内容と違う科目もある。それを高く評価する学生もいれば、受け入れるのに時間のかかる学生もいると考えられ、そのような科目については幅のある評価を得たものもあるようだ。

今日の大学では、一種の専門学校化が著しく進んでおり、「教養」の意義づけがなされていない。

とりわけ理論的、思想的学科を学生に教えることは、日々難しくなっている。「教養」科目をなぜ受けねばならないのかわからない、と直接授業の後に訴えに来る学生も多い。今日を受験制度が学生一人一人の学問への「関心」を内発的に育てる形にはなっていないという重大な背景もあり、授業の方法論だけでは処理しきれない問題がある。なにぶん履修者が多い部会であり、試験の採点が2回から4回に増えたことも加わって、採点スケジュールを充たすこと自体が、時間的にも、体力的にも厳しい状況である。そのような状況を考えると部会としては比較的よく健闘していると判断される。

#### 4-2 評価項目に基づく自己点検・評価

##### A 授業の到達目標とそれに対応した教育内容について

人間と社会部会では、基礎教養科目として社会科学系の「社会学」、「地理学」、総合教養科目として「社会思想史」、「文化人類学」、「現代社会論」、「越境する文化」、「生活環境と技術」、「学校教育と社会」を開講している。当教育部会が提供する授業の目標は、シラバスにも見られるように、全学共通授業科目の科目区分ごとの教育目標に対応しており、授業担当者は到達目標を、共通目標に沿ったものにするよう配慮している。ただし、いずれも個々の学問分野の導入的な内容となっている。

##### B 部会の組織構成と運営体制

当部会の組織構成と運営は適切に整備され、機能していると考えられる（2-3の開講科目、運営体制を参照）。

##### C 教育内容及び方法

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。全体として授業は、「人間と社会」の学習目標を、抽象的な思想・理論から、具体的・経験的事例論まで、多様な学問上の手法・視点から追究している。近代科学のディシプリン（社会学、文化人類学、地理学、社会思想史）および現代的課題と具体的なグローバルイシュー（社会学、文化人類学、地理学、現代社会論、越境する文化、生活環境と技術、学校教育と社会）の双方を視野に、「人間と社会」が担当すべき広範な領域をカバーしている。社会学、文化人類学、地理学は、この両方が満たされるようスタッフの配置を考えている。

教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態を適度に組み合わせ、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法を採用している。授業方法は、授業内容の性格に応じて、映像やグラフ、ビデオ、さらに実験や小集団教育などを使用したものから、すべて講述からなるものまで多様である。授業レジュメと資料は、十分に用意されている。また、シラバスに沿ったレポート課題の設定と指導を行なう、レポートにおいて学生の興味関心のあることを選択させる、毎回、前回の授業内容の復習、再確認をするなど様々な工夫がなされている。

単位の実質化に関しては、多人数クラスのため行き届かない部分も多いが、可能な限り配慮するよう、こころがけている。具体的には、それが可能なサイズの授業では、毎回授業に対するコメントを書かせて提出させ双方向的な要素を取り入れることに腐心したり、毎回課題を掲げ学生の自主自習を促したりするなどの工夫が行われている。

シラバスについては、まだ教員によるばらつきが見られるが、概ね適切に作成され、活用されている。また、学生の反応や学習状況を授業終了時のコメントを通じてその都度確認するなどの工夫がなされている。講義内容についても、概ね細かく予告、解説している。実際の講義も、学生の理解力が毎年必ずしも同じではなく、また、質問に割く時間配分などの問題もあるので、完全にということはありませんが、シラバスに沿って展開するよう努力している。

多人数のクラスの場合は、基礎学力不足の学生に対して、きめ細やかな配慮が行き届かない部分がどうしても多くなってしまう状況にあることは否めない。しかし、そのような困難な状況の中でも配慮は可能な限り実施する努力をしている。今日の学生は理論と思想が平均的に苦手であり、これにどう対応するかという課題は残る。重要な内容を繰り返し説明したり、こまかな補助資料を渡したり、様々に理解を深めるために手が打たれているが、世代的な問題もあり今後さらに一層の検討を要する事柄である。

成績評価基準についてはシラバスにおいて明示し、その基準に則った成績評価が適切に実施していると考えている。また、成績評価基準を第一回の授業時に受講生に対し詳しく説明するなどの工夫を行っている。成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられている。成績評価は試験答案等にもとづき客観的かつ厳格になされており、シラバスに掲載された成績評価基準に則った評価を行っている。学生からの異議申し立ては少ない。

本部会はアクティブラーニングや体験型学習などを含む科目も多く、各教員が工夫をした授業を行っているが、そのことに対する具体的なエビデンスや効果についての調査は現在行われている途中の段階であり、今後のさらなる課題としたい。

#### D 当該教育部会の教育活動による学習成果

多人数のクラスの場合、どうしても一定程度の限界があることは否めない。とりわけ今日の学生は授業を「面白い」、「面白くない」という単純な基準で測りがちであるが、そういう尺度では判断のしようがない科目をこの部門は抱えており、そういう授業についていかに成果を挙げるかは、難しい課題でありつづけている。しかしながら、ひとりひとりの教員の努力と創意工夫により、受講生の学習成果は上がるよう努力している。本大学の学生のポテンシャルの高さでもあろうが、試験の出来は悪くなく、きわめて優秀な答案を書けるまでになる人材も、つねに一定程度存在している。学生を対象とした授業評価アンケートの結果からも、人間と社会教育部会の授業では適切な学習成果があがっていると考えられる。

学生への履修指導は適切に行われていると考えている。具体的には、第一回の授業時に詳細なガイダンスを実施する、ガイダンスの内容を記した資料を配布するなどの工夫を行い、受講生に対し授業科目の詳細な内容が伝わるよう丁寧な説明がこころがけている。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援を適切に行っている。

#### E 人間と社会教育部会の教育活動に関わる施設・設備及び学生支援

教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等に関しては十分には整備されていない。自主的学習を促進するには、少人数・双方向的授業の展開が必要だが、実際には多人数クラスが多く、その環境は完全には整備されていない。ただ、大学教育推進機構としてコモンスペース×4、ラーニングコモンズ×1を備えており、学生はこれらの施設を利用可能である。

多人数クラスにおいても、可能な範囲で学習支援として、学習相談、助言、支援を適切に行っている。具体的には、アンケートによる質問を受け付け、授業時において回答する、設定したオフィスアワーを活用する、そのほか個別の支援の要望に対し柔軟に対応するなど、さまざまな工夫をしている。授業後の様々の質問にも、時間が許すかぎり答えている。

特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況であり、必要に応じて学習支援がなされている。

#### F 人間と社会教育部会の教育の質の改善・向上

当部会では3年に一度のピアレビューを実施し、教育の質の改善に努めている。部会構成員の自身の



授業時間との重複などがあり参加者人数が少ない傾向がみられるが、事後の資料の共有などを通じて適切に対応した。また、授業評価アンケートの結果にもとづき毎年度末に各部会構成員が自己点検・評価を実施しており、教育の改善・質の向上を図る体制が整っていると考える。

## 5 1 巡目の外部評価結果を受けての自己点検・評価

### 1. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各科目との整合性

神戸大学は、本学の「教育憲章」及び「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、学士課程においては「全学共通授業科目」及び各学部・学科に設置する「専門科目」を大きな柱とし、それぞれの学部・学科の教育目標にあわせたカリキュラムを次の方針に則り体系的に編成することとしている。

特に「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設している。基礎教養科目は、複眼的に思考する能力を身につけることができるように、総合教養科目は、文化、思想、価値観の多様性を受容するとともに、多分野にまたがる地球的課題を理解する能力を身につけることができるように、とあり、この方針に則って講義内容に配慮している。

### 2. 成績分布

国際教養教育院の各教育部会では開講授業科目の成績評価に関する情報を共有し、担当教員による成績評価の差を小さくするための工夫を行うこととしており、同一の授業科目を複数開講し、複数の教員が担当する場合は、担当教員間で成績評価基準等の調整を行うものとしている。「秀」は特に優れた成果を収めたとの評価であることから、履修者の概ね10%程度を上限とすることを全学的な目安とすることとしており、3-4成績評価でも示したように、当部会では、その範囲を超えない状況である。

### 3. 各授業の到達目標の可視化と評価システムの構築

シラバスに到達目標を明記し、神戸大学としても評価方針を学生に明示的に示している。人数が多い講義では、双方向の授業がしにくいのが、BEEFの小テスト・アンケート・フォーラム機能などを活用することによって、より主体的に学習に取り組む工夫がとられている。また、いくつかの科目ではTA・SAを雇用して、授業内での小テストや小レポートの実施を効率化している。

### 4. 教材としてのメディア・リテラシーの扱い

全学共通共育科目の「情報基礎」において情報リテラシー教育を行っており、基礎的な倫理教育とともに、メディアに対する接し方について授業の中でも考える力を養う配慮をしている。

## Ⅱ 外部評価

## 1 外部評価委員会概要

平成30年度神戸大学教育推進機構国際教養教育院  
人間と社会教育部会 外部評価委員会

日 時 平成31年2月8日(金) 16:00～18:00

場 所 神戸大学鶴甲第1キャンパスN402A中会議室

### 【実施スケジュール】

- (1) 開会挨拶・委員紹介
- (2) 人間と社会教育部会からの説明・質疑応答
- (3) 外部委員による講評と意見交換
- (4) 閉会挨拶

### 【出席者】

#### 外部評価委員

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 平井 松午 | 徳島大学総合科学部地理学研究室・教授  |
| 才脇 直樹 | 奈良女子大学研究院生活環境科学系・教授 |

#### 自己評価委員

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 井上 真理 | 人間と社会教育部会長，人間発達環境学研究科・教授 |
| 石森 大知 | 人間と社会教育部会監事，国際文化学研究科・准教授 |

#### 陪席者

|       |   |
|-------|---|
| 齋藤 政彦 | 副学長（共通教育・数理データサイエンス担当），大学教育推進機構国際教養教育院長 |
| 坂本 千代 | 大学教育推進機構国際教養教育院評価・FD専門委員会委員長            |
| 藤田 裕嗣 | 人間と社会教育部会，人文学研究科・教授                     |

## 2 外部評価委員による講評

外部評価委員会では、まず自己評価委員会から、本報告書「1 自己点検・評価報告書」および「資料：各科目のシラバス(抜粋)」を用いて、人間と社会教育部会による共通今日お幾科目の提供体制と概要が示された。おもに、以下の事項についての説明が行われた。

- ・全学共通教育全体の構造
- ・「人間と社会」部会の授業科目と教員構成および開講状況
- ・授業の概要・成績評価
- ・学生による授業評価の概要
- ・評価項目に基づく自己点検・評価

その後、外部評価委員からの質問、確認事項等に対して自己評価委員および陪席者が対応しながら、評価コメントを受けた。以下は各委員からの講評である。なお、〔 〕内は、自己評価委員及び陪席者による補足説明もしくは本報告における対処内容を示す。

### 平井 松午 委員による講評

#### ○ 特に優れている点

- ・成績評価基準において、人間と社会部会開講科目では目安の10%未満を満たしている点は評価できる。
- ・一般に、講義系科目では自己学習時間があまり確保できない傾向にあるものの(設問4)、人間と社会部会開講科目についての評価は相応に高いといえる(設問5)。人間と社会部会開講科目については社会事象を扱う内容になっていて、学生もある程度関心をもって取り組めるためとみられる。

#### ○ 特に改善を要する点

##### <改善を要する点>

- ・「自己点検・評価書」に添付の受講者数(抽選登録結果等)の資料にある「定員」「空き定員」は教室規模を示すデータであり、削除してもよいのではないかと。  
〔外部評価報告書(本報告)では削除。〕
- ・シラバスについては、授業回数ごとの授業テーマが明記されていないものや、成績評価基準欄に「秀、優、良、可、不可に基づく」とのみ書かれ、成績評価基準のためのモノサシ(試験、小テスト、課題、レポート、授業態度など)が明示されていないケースも多々見られた。教育の質保証(アセスメント)の観点からは、学生に対してより具体的な成績評価基準の明示が求められる。シラバスの記載内容の統一やチェック体制も含めて、改善が求められる。  
〔確かに教員の中でのばらつきが見られることは否めない。このことに関しては、教員側の想いもある一方で、詳細なシラバスの標記が求められていることから、話し合いを重ね、同意のもとに、より良い方向になるよう、今後も努力していく所存である。〕

##### <今後検討を要する事項>

- ・ディスプリン型として位置付けられている「社会思想史」「文化人類学」が、「社会学」「地理学」と同様に基礎教養科目ではなく総合教育科目に位置づけられている点については、「神戸スタンダード」との関係性から説明されたが、学生にとってはわかりづらい区分のように感じられた。

- ・各科目で受講者数にバラツキが出るのは仕方ないが、上限 200 名という受講者数制限が適切かどうか、検討が必要である。教室規模に上限を合わせるのではなく、授業内容あるいは教育の質保証という観点から、人間と社会部会が開講している科目について適正規模を検討することも考えてもよいのではないか。
- ・内部の「自己点検・評価」書にもあるように、人間と社会部会開講科目の授業では 1 単位（1 科目 7.5 回）の場合にはトピックス的な内容にならざるを得ず、概念的・体系的な理解に結びつけにくい。その点で、2 単位制も含めて、授業回数あるいは授業形態については見直しの検討が必要かもしれない。〔上記 3 点については、これまでも検討してきたが、今後も検討を続ける所存である。〕

#### ○ 全体的講評

- ・大学教育推進機構全学共通教育部が、部会レベルで外部評価を毎年度継続的に実施し、全学共通教育の質向上に努めている姿勢は高く評価される。
- ・1 学年約 2,500 人（10 学部）もの学生を受け入れていることから、大学教育推進機構全学共通教育部では科目ごとに 22 もの部会が設置され、新たな教育ニーズに対応しようとする前向きな姿勢も評価される。また、平成 28 年度の教育改革により、高度教養科目として 3 年次に履修できる教養科目を新たに開設した点も高く評価される。こうした点で、他大学でも参考になる教養教育の先進的な改革に取り組んでいるといえる。
- ・ただし、人間と社会部会に関わる授業科目も含めて講義系科目についていえば相対的に受講生が多く、教育の質保証という観点からは、授業規模の平準化や（教員数が削減される中で）担当教員の確保、シラバスの整備なども必要に思われる。

### 才脇 直樹 委員による講評

#### ○ 特に優れている点

- 1：全学共通教育の目的・目標に、カリキュラムやディプロマ等の各ポリシーに象徴される神戸大学の教養教育の目指す方向性や価値観、神戸の地域性と国際性を生かした独自の教育や教養涵養のための視点・視野等のあり方が過不足なく反映されている点
- 2：従来の基礎教育としての教養教育の枠にとどまらず、学際化や国際化の視点から断絶しがちな専門教育との融合・橋渡しに積極的に取り組み、高度教養教育を実践している点
- 3：また、高度教養教育の実施にあたって大規模総合大学の特性を生かし幅広い科目を提供しており、さらに外部講師なども招いて最先端テーマを提供することで、学生の知的好奇心をアクティベートしていく努力がうかがえる点
- 4：3 とは逆に、大規模総合大学であるがゆえに、100 名以上～200 名にも上る受講者がいる科目もある中で、なるべく学生の満足度が高まるような受講者や教室の割り当てなどに細心の注意をもって運営されている点
- 5：神戸大学ほどの大規模校にして、先駆けてクォーター制を実施するなど、よりよい学生教育を求めて運営事務や成績評価等の手間を惜しまない、挑戦する大学の姿勢が表れている点

#### ○ 特に改善を要する点

- 1：多様な分野から構成される大規模な部会故に、分野ごとの運営に対する基準に違いがみられる。例えば、シラバスの記述スタイルにばらつきがみられるので、統一性に欠ける印象を与えないような工夫があったほうが良い。特に、「授業計画」の各回ごとの内容の記述と「評価基準」の内訳（授業参加度、レポート、試験のパーセンテージ等）の明確化については、新設時や教職課程認定時など

には特に厳しく指導される。

- 2 : シラバスの項目と学生の授業評価項目を対応させることで、授業が効果的に実施され学生がそれを認識しているかどうかが明確になる側面もあるので、シラバスは単に授業計画の公表にとどまらず、授業評価とも対をなすものである。したがって、統一的で整ったシラバスを明示することは、より正確な授業評価のためにも重要である。

[上記2点については、平井先生からの講評に対する内容と同様であるが、確かに教員の中でのばらつきが見られることは否めない。このことに関しては、教員側の想いもある一方で、詳細なシラバスの標記が求められていることから、話し合いを重ね、同意のもとに、より良い方向になるよう、今後も努力していく所存である。]

- 3 : 分野によって、学生からの授業評価に偏りが生じることがある。もちろん、早急に改善できる場合はそうすべきであるが、分野の特性や受講クラスの割り当て上やむを得ないケースも多いと思われる。そのような場合でも、自己点検・評価において、その原因・理由を明確にしておくことで問題の存在を組織として認識していることを明らかにし、将来組織改革を行う際の有効な方向性を示すことができると思われるので、具体的な問題分析を記載しておくことが重要である。

[科目によっては、評価の幅が大きくなることは否めない。分析を怠らず、改善していくように努める所存である。]

- 4 : 授業評価に関しては、設問1が授業時間に関するものであるにもかかわらず、その結果の分析とそれをどのように生かしていくべきか(授業改善等)の記述がないので、何らかの形で触れておくほうが良い。

[自己学修時間を増やす努力が望まれ、今後の課題の一つであることを本報告で記述する。]

- 5 : アクティブラーニングや体験型学習など特筆すべき授業については、そうした授業を実施している科目名を明記し、それぞれどのような取り組みを行いそんな効果が得られたか、受講人数はどの程度で期待通りだったかなど、具体的な記述が求められる。

[本部会はアクティブラーニングや体験型学習などを含む科目も多く、各教員が工夫をした授業を行っているが、そのことに対する具体的なエビデンスや効果についての調査は現在行われている途中の段階であり、今後のさらなる課題としたい。]

- 6 : その他、数が多い・少ない、いくつかの等印象的な表記は、なるべく実数や何らかの基準と比較するなど、より正確な記述方法の方が良い。

[できる限り、実数を挙げて記述する努力をする。]

#### ○ 全体的講評

神戸大学は関西屈指の大規模総合大学の一つであり、その取り組みは多くの近隣校の参考や目標にされることも多い。特に、先駆けて導入されたクォーター制の良い点と難点や高度教養教育の成果について、今後より多くの情報を蓄積・公表・評価していかれることが期待される。学期を細分化することによって全体として運営負荷が増しているにもかかわらず、教員や事務が一体となってその教育上のメリットをより強化すべく努力されている様子が伝わってくるのは頼もしい。ただ、一授業当たりの受講者数が極めて大きい教養系だけに、こうした工夫が教員や事務の過重負荷にならないよう、将来的に管理運営に配慮し改善を続けていく必要があると思われるが、現時点ではまだ状況の推移を見守っている段階で評価には早いと思われるので、今後の自己点検・評価の結果を待ちたい。細部については、上記の通りである。

人間と社会教育部会の外部評価では、個々の部会としても全学的にも取り組むべき問題点・課題が明らかになった。

- ・シラバスの統一性をはかること
- ・授業評価アンケート結果の分析と課題の洗い出し
- ・アクティブラーニング，体験型学習の具体的なエビデンス，効果の分析と授業改善への取り組み
- ・クォーター制，セメスター制のメリットとデメリットの分析と授業改善への努力

神戸スタンダードなどの取り組みにおいて、複眼的に思考する能力や、多様性、協働力を育てようとする取り組みや、さまざまな努力に対して、総合大学のメリットを十分活用した取り組みを行っているとの評価をしていただいた。一方で、取り組むべき問題点に関してのご指摘をいただいたことから、明らかになった課題の解決につとめていきたい。